

2025年度 理科シラバス (No. 5)

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	2	学年	2
学科・コース	普通科 看護医療進学コース、総合キャリアコース、英語コース、スポーツコース、幼児教育コース、音楽コース 美術科 アート・イラスト・アニメーションコース						
教科書	東京書籍 科学と人間生活		副教材	・東京書籍 ニューサポート 科学と人間生活 ・スタディサプリの該当範囲			
科目の概要	自然と人間生活とのかかわり、および科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解を深め、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。 身近な自然の事物・現象および日常生活や社会の中で利用されている科学技術を取り上げ、科学と人間生活とのかかわりについて認識を深める。また、自然と人間生活とのかかわり、および科学技術が人間生活に果たしてきた役割についての学習を踏まえて、これからの科学と人間生活とのかかわり方について考察する。			評価の観点	・知識・技能…知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。 ・思考・判断・表現…習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。 ・主体的に学習に取り組む態度…知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自身の学習状況についての振り返りや学習方法を試行錯誤するなどの工夫ができているか。		
				評価方法	知識・技能の評価：定期考査、小テスト・宿題（スタディサプリー含む）など。 思考力、判断力、表現力を評価：実験レポート、提出課題、グループワークなど。 主体的に学習に取り組む態度の評価：学習への取り組み（授業態度など）や提出状況など。 さらにこれら3つの観点を総合的に評価する。		
授業内容	1 学期 1 編 生命の科学 1 章 微生物とその利用 2 章 ヒトの生命現象 2 学期 2 編 物質の科学 1 章 材料とその再利用 2 章 衣料と食品 （一部化学基礎の内容を含む） 3 学期 4 編 宇宙や地球の科学 1 章 太陽と地球 2 章 自然景観と自然災害			学習方法	理科の勉強で一番大切なことは、自宅に帰ってから、教科書やノートだけでなく、スタディサプリーも活用し、その日の内容をその日のうちに復習すること。授業で分からない事があれば、後回しにせず、その時もしくは、授業終了後にすぐに担当の先生に聞きに行くようにする。		
				備考			

教科	理科	科目	化学	単位数	2	学年	2
学科 ・ コース	普通科 特進コース (理系)						
教科書	東京書籍 化学 Vol.1 理論編 (東京書籍 化学 Vol.2 物質編)	副教科 教材	東京書籍 ニューステップアップ 化学 新課程				
科目の概要	化学基礎との関連を図り復習も行いながら、さらに進んだ化学的方法で自然の事物・現象に関する問題を取り扱い、観察・実験などを通して、化学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。			評価の観点	知識・技能…知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。 思考・判断・表現…習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。主体的に学習に取り組む態度…知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自身の学習状況についての振り返りや学習方法を試行錯誤するなどの工夫ができているか。		
授業内容	1 学期 物質の状態変化 気体の性質 溶液の性質 固体の構造			評価方法	定期考査、小テストから知識、技能を、実験レポート、提出課題、グループワークなどから思考力、判断力、表現力を、授業態度や提出状況などから主体的に学習に取り組む態度を評価し、さらにそれらを総合的に評価する。		
	2 学期 化学反応と熱・光エネルギー 電池と電気分解			学習方法	身の回りの事象や、それに対する疑問など、生活に関連した事柄を学ぶ。また、授業内に多く演習を取り入れ、問題になれる。 実験も適宜行い、器具の扱い方、レポートの書き方などを学ぶ。 タブレットでの学習や、グループワークなど、積極的に取り入れる。		
	3 学期 化学反応の速さと平衡 化学平衡			備考			

教科	理科	科目	化学	単位数	2	学年	2
学科 ・ コース	普通科 看護医療進学コース						
教科書	東京書籍 化学 Vol.1 理論編 東京書籍 化学 Vol.2 物質編	副教材	東京書籍 ニューステップアップ 化学 新課程				
科目の概要	化学基礎との関連を図り復習も行いながら、さらに進んだ化学的方法で自然の事物・現象に関する問題を取り扱い、観察・実験などを通して、化学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。			評価の観点	知識・技能…知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。 思考・判断・表現…習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。主体的に学習に取り組む態度…知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自身の学習状況についての振り返りや学習方法を試行錯誤するなどの工夫ができているか。		
				評価方法	定期考査、小テストから知識、技能を、実験レポート、提出課題、グループワークなどから思考力、判断力、表現力を、授業態度や提出状況などから主体的に学習に取り組む態度を評価し、さらにそれらを総合的に評価する。		
授業内容	1 学期 物質の状態変化 気体の性質 2 学期 溶液の性質 固体の構造 化学反応と熱・光エネルギー 3 学期 化学反応の速さ 化学平衡			学習方法	身の回りの事象や、それに対する疑問など、生活に関連した事柄を学ぶ。また、授業内に多く演習を取り入れ、問題になれる。 実験も適宜行い、器具の扱い方、レポートの書き方などを学ぶ。 タブレットでの学習や、グループワークなど、積極的に取り入れる。		
				備考			

2025年度 理科シラバス (No. 8)

教科	理科	科目	生物	単位数	2	学年	2
学科 ・ コース	普通科 特進コース (理系)、看護医療進学コース						
教科書	数研出版 生物	副教材	・特進コース (理系)、看護医療進学コース 数研出版 リードα 生物				
科目の概要	「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象を更に広範に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。また、観察、実験を通して、生物学的に探究する方法を習得する。			評価の観点	知識・技能…知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。 思考・判断・表現…習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。主体的に学習に取り組む態度…知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自身の学習状況についての振り返りや学習方法を試行錯誤するなどの工夫ができているか。		
				評価方法	定期考査、小テストから知識、技能を、実験レポート、提出課題、グループワークなどから思考力、判断力、表現力を、授業態度や提出状況などから主体的に学習に取り組む態度を評価し、さらにそれらを総合的に評価する。		
授業内容	1学期 第1章 生物の進化 第2章 細胞と分子 2学期 第2章 細胞と分子 第3章 代謝 3学期 第3章 代謝 第4章 遺伝情報の発現と発生			学習方法	授業内で理解できなかった点はすぐに質問し、解決する。 復習を怠らず、繰り返し学習することで、知識を定着させる。		
				備考			

2025年度 理科シラバス (No. 9)

教科	理科	科目	生物	単位数	2	学年	2
学科 ・ コース	普通科 総合キャリアコース						
教科書	数研出版 生物		副教材	・総合キャリアコース 数研出版 リードlight ノート 生物			
科目の概要	「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象を更に広範に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。また、観察、実験を通して、生物学的に探究する方法を習得する。			評価の観点	知識・技能…知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。 思考・判断・表現…習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。 主体的に学習に取り組む態度…知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自身の学習状況についての振り返りや学習方法を試行錯誤するなどの工夫ができているか。		
				評価方法	定期考査、小テストから知識、技能を、実験レポート、提出課題、グループワークなどから思考力、判断力、表現力を、授業態度や提出状況などから主体的に学習に取り組む態度を評価し、さらにそれらを総合的に評価する。		
授業内容	1 学期 第 1 章 生物の進化			学習方法	授業内で理解できなかった点はすぐに質問し、解決する。 復習を怠らず、繰り返し学習することで、知識を定着させる。		
	2 学期 第 2 章 細胞と分子 第 3 章 代謝 3 学期 第 4 章 遺伝情報の発現と発生				備考		

2025年度 理科シラバス (No. 10)

教科	理科	科目	物理基礎	単位数	2	学年	2
学科 ・ コース	普通科 特進コース						
教科書	東京書籍 新編 物理基礎		副教材	東京書籍 レッツトライノート 物理基礎 Vol1. 「力学編」			
科目の概要	物理学が日常生活や社会とどのように関連しているかを知り、物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高める。 また、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につけると同時に、目的意識をもって観察・実験などを行い、物理的に探究する能力と態度を身につける。			評価の観点	知識・技能…知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。 思考・判断・表現…習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。主体的に学習に取り組む態度…知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自身の学習状況についての振り返りや学習方法を試行錯誤するなどの工夫ができているか。		
					定期考査、小テストから知識、技能を、実験レポート、提出課題、グループワークなどから思考力、判断力、表現力を、授業態度や提出状況などから主体的に学習に取り組む態度を評価し、さらにそれらを総合的に評価する。		
授業内容	1学期 中間 運動の表し方 期末 力のつりあい 運動の法則 仕事と力学的エネルギー 2学期 中間 熱とエネルギー 期末 波の性質 音 3学期 物質と電気抵抗 交流と電磁波			学習方法	目に見えないもの、または動きのあるものについて学習するのでしっかり想像力を働かせ、図やグラフなどを上手く使えるようにする。また、関係式（公式）の意味をよく理解し、練習問題を何度も繰り返し解くことで慣れるようにする。		
				備考			

2025年度 理科シラバス (No. 11)

教科	理科	科目	(学) 理科演習	単位数	2	学年	2
学科 ・ コース	普通科 特進コース (文系)						
教科 書	数研出版 改訂版 化学基礎 数研出版 改訂版 生物基礎 ※1年次の教科書を引き続き使用する。		副 教 材	数研出版 リードα 化学基礎 数研出版 リードα 生物基礎 ※1年次の副教材を引き続き使用する。			
科目 の 概 要	化学基礎・生物基礎の内容について、それぞれ単元別に理解度を確認するテストや模擬試験問題などを用い、大学入試共通テスト問題を解く基本的な学習内容の理解を深める。また、実験を行うために必要な基本的な知識や器具の操作、レポートの書き方などを実践的に習得する。 なお、1年次の化学基礎・生物基礎において、未学習の単元がある場合は、その単元の学習を実施する。			評価 の 観 点	知識・技能…知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。 思考・判断・表現…習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。主体的に学習に取り組む態度…知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自身の学習状況についての振り返りや学習方法を試行錯誤するなどの工夫ができているか。		
				評価 方 法	定期考査、小テストから知識、技能を、実験レポート、提出課題、グループワークなどから思考力、判断力、表現力を、授業態度や提出状況などから主体的に学習に取り組む態度を評価し、さらにそれらを総合的に評価する。		
授 業 内 容	化学基礎・生物基礎の学習内容について、単元別の演習問題を解き、理解度の確認を行う。また、必要に応じて、教科書や問題集を用いて、補足的に復習授業を実施し、理解力を深める。併せて、実験や観察に関する問題を解くために必要な基本的知識（器具や装置の扱い、薬品を取り扱う際の注意点など）を身につけてもらうための実験、観察を適宜行う。			学 習 方 法	授業内で理解できなかった点はすぐに質問し、解決する。 復習を怠らず、繰り返し学習することで、知識を定着させる。 実験については積極的に参加し、経験することで、知識を得るようにする。		
				備 考			